

2002年 2月2日

「新生物多様性国家戦略素案（事務局案）」についての意見。

東中国クマ集会 矢倉 達也

環境省において「森林」の定義をはっきりさせる必要があります。

「森林」とは何を指しますか。針葉樹林ですか、広葉樹ですか。人工林ですか、天然林ですか。それらを総合した概念ですか。

わたしは曖昧な形で使われる「森林」という言葉に深い疑念を抱きます。旧林野庁の指す「森林」は明らかに人工林を示すことが多かったようにおもいます。

しかし、一般の人々が持つイメージとはズレがあるようです。私を含めて一般に「森林」とは広葉樹の森です。「森林の絵を描いてください」と質問した時どのような絵が描かれるでしょうか？

たとえば「森林の整備」とは一体、何を整備するのでしょうか。当国家戦略素案では「森林」の持つ言葉のイメージを自在に操り、様々なすり替えが行われているように思います。わたしはそれがとても悔しいのです。

いつから林野庁がスギ、ヒノキの人工林を「森林」と呼ぶようになったか、分かりません。それは兎も角として、理由の如何に問わず、新しい時代における、環境省では明確にわけられるべきです。「森林」から「単一的な樹木で構成された人工的かつ農学的な樹林」を切り取るべきです。

## 第一節

### 「1、森林・林業」

1、基本的考え方、で紹介されているようにわが国では持続的な木材利用を可能としてきました。その利用の仕方が生物の多様性を保障してきた面もあることは認めます。日本人としての誇りも感じます。

しかし、ここには面積規模における視点がありません。人力と機械力の差が欠如していません。明らかに広大に広がった人工林への反省なしに、どうして、「自然の回復が期待できないほどの生物多様性が決定的に損なわれることはあまりなく、人工林においても、二次的な森林生態系の生物多様性が維持されてきました」という文言が述べられるのでしょうか。本当に私達は今も昔も同じ営みを繰り返しているのでしょうか。「質」の面では良いとしても「量」の面において決定的に損なわれている現状を認識しなければなりません。

拡大造林政策の反省を出発点に適切な林業経営と二次的な植生の回復に努めなければなりません。

## 保全と持続可能な利用への取組

### (2) 森林保全の確保 では

「保安林以外の民有林については、無秩序な開発がなされないよう、1ヘクタールを越える開発行為に対する許可制度を通じて、森林の土地の適正な利用を確保します。」とありますが、1回、1ヘクタール以下なら許可無くできることを述べているに等しく、新たな林地開発、スギやヒノキの植林を規制するものではないように思われます。1ヘクタールずつ開発していけば問題なく、スギ・ヒノキなどの植林開発にはなんら支障はないでしょう。合算面積が1ヘクタールを越える時に関しても規制をする必要があると思います。

続いて(5)の 国民等の自発的な活動の促進における「森林の重要性の普及啓発」ですが、森林ボランティアや緑の少年団、の活動の多くが枝打ち作業等を行い、もっぱら林業体験に特化しているように思います。このような啓蒙活動に「森林」や「緑」といった言葉を使用し「自然保護」にイメージを近づけることは避けるべきだと思います。「森林ボランティア」は「林業ボランティア」と明確にすべきです。

### 3 国有林野における取組

#### (3) 国有林野の維持及び保存

「緑の回廊」を設置することはよいですが、決して回廊の外側を開発したり軽んじたりしても良い訳ではないはずです。保護林地自体の面積の十分な確保こそが重要である。その努力なくして、いくら回廊を設置したとて本末転倒です。

「緑の回廊」は保護林地間に既に人為的な障壁がある場合にその障壁を越える手段として次善の策として用いられるべきです。このことを肝に銘じておかないと「緑の回廊」は免罪符として使われるだけなのです。

バッファゾーンに関して言えば、コアエリアというような概念が通用しないような大型野生動物(シカ、クマ、イノシシ等)もあり、バッファゾーンの管理は大変難しいものとなるはずですが。またコアエリアがコアエリアとして十分に機能するだけの面積を確保できないのにバッファゾーンのみを取り立てて「保全利用地区」として活用することは望ましくありません。こうした日本の自然環境の特徴に従えばバッファゾーンにはレクリエーション的な施設は避けられなくてはなりません。自然観察路や休憩施設といったものレクリエーション的な要素も多分に含みます。施設型利用(案内板等も含めた人工工作物)は移行地帯(トラジッションエリア)に作られるべきです。コアエリアとバッファゾーンとは厳密にゾーニングできるようなものでもありません。(保全計画上、必要不可欠ですが・・・)実際には渾然一体となって存在するわけです。バッファゾーンでは環境教育・訓練の場として厳格な利用が望まれます。